



…は
はあ？





悪魔と関わる事は
君にとって良くない

辛いことに
なる

今すぐに普通の
生活に戻りなさい

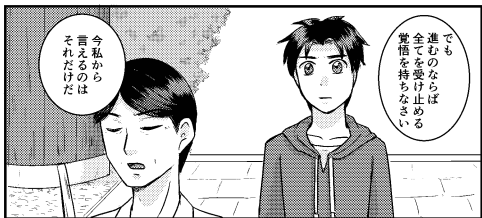


それは
言えない

ただ君を
辛い目には
会わせたく
ないんだ

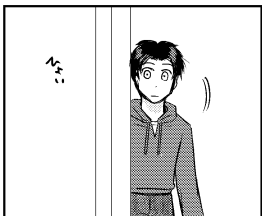


おじさん
何でそういう事を
言うの…??



今私から
言えるのは
それだけだ

でも
進むのならば
全てを受け止める
覚悟を持ちなさい





お……
おはよう
ございます

静かにね
瓊花まだ
寝てるから



ああ
天野くん
時間より早いね

おはよう



本当に
ここに泊まって
るんですね

灵力補給に
よく立ち寄るんだ

気づいたら
寝落ち
しちゃうだけ

あの日も
そう



……何か
色っぽい話じゃ
無いような……

そうだ
時間あるから
少し君の事視せて
もらいたいんだけど
いいかな

視るって
何をですか？

ゲームの
ステータス
的な？

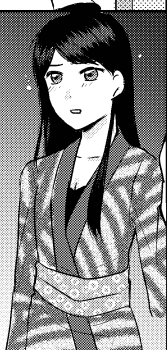
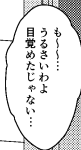


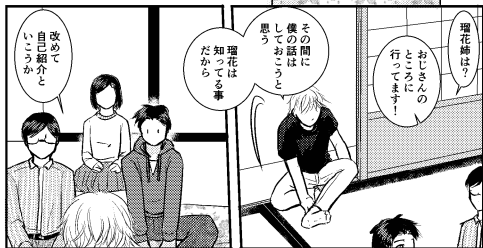
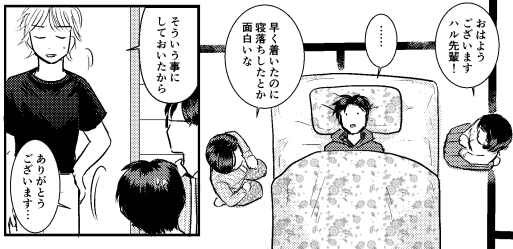
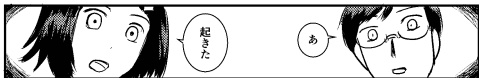
灵力補給？

被魔は
疲れるから

今日は
あ今日は
君達が来るから
本当に泊まった
けどね

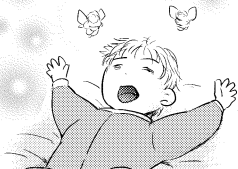






僕の日本名は高峰綺羅
アイランドに
去年の春まで住んでて
向こうではルークという
愛称で呼ばれてた

ある理由で
たまたま生まれつき
霊力が強くてね
赤ん坊の頃から
妖精たちと戯れて
いたらしい



初めて発した言葉が

Tá ocraí orm!

「おなが空いた」
ってゲール語！
アイランド語！
だったんだけど

え…？うちで
ゲール語
話してない
わよね？

日本語を
覚えてくれない
とレウウわい
アム…

然るべき
ところに
聞いてみるか

不思議に思った
両親が

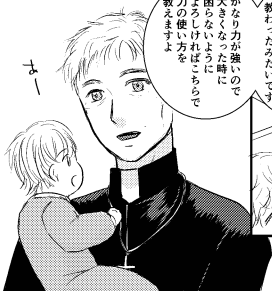
近くの教会に
相談しに
行ったんだ

ああ…

靈感がとでも
強みたいですね
妖精たちに
教わったみたいですよ

かなり力が強いので
大きくなった時に
困らないように
よろしければこちらで
力の使い方を
教えますよ

今も
話しかけてます



その人が
前に言ってた
師匠の人？

そう
オーエン神父と
言ってたね
彼も被魔師：
エクソシスト
だった

僕は彼の元で
物心付く前から
力の制御を
学んだんだ

妖精たちに
囲まれながらね

けど…
もう10年前に
なる

ある日
オーエン神父の
家の前で
死を告げる妖精
バンシーが
泣いていて

不吉な予感を
感じて教会に
走った

A!!

くっく

神父さま！





箱の隙間から
僕はその
一部始終を
見届けた



我が身を辱つた
憎き遺物は
どこにある



さあ：
知っていたと
しても
貴様ごときには
答えんよ

オーエン神父は
悪魔と対峙し



魂を殺されて
死んでしまった



その結果





それで
母の勧めで
去年日本に
来たわけ

隣に墓地のある
白風だったら
退屈しないだろうと
思ってたけど
成仏出来てない霊が
思ったより多くて
退屈しなかったよ

まさか学校から
霊がいなくな
ったのって…

どうやら僕が
やりすぎた
みたいだね

昨日の海藤も前に
ルイス先生が言ってた
一つだったんだ

やっと除霊できて
よかったよ

うわあ…

そういえば
海藤先輩は？

スポーツ推薦で
決まっていた
大学はダメに
なりそうだね

霊に取り憑かれてた
なんて言い訳は
通らないし

悪霊や悪魔は
海藤のように
人の人生を
狂わせて
しまうから

被害が出る前に
何とかしたい
けれども
手遅れになる事が
多い

しかも
ここ半年くらい
どういうわけか
悪魔が増えてきていて
手に負えない状況だ

そんな矢先に
出会ったのが
瑠花なんだ

去年の秋の
生徒会交流会で
フリーズしてた
やつですよね

そう

今思えば
結果オーライ
だったけど

美人すぎる
巫女って
言っても
絶対ハリポテ
じゃん！

あたしも
観たい！

わかったよ

いもすう
しわぞわ

あの日
僕はシャムを
瑠花はハクを
たまたま
連れていたんだ



待て
天狐がこれ
本物たる

ハリポテって
いもすうぞわん

妖精…?!
しかも普通に
ベットのようだ…

いもすう

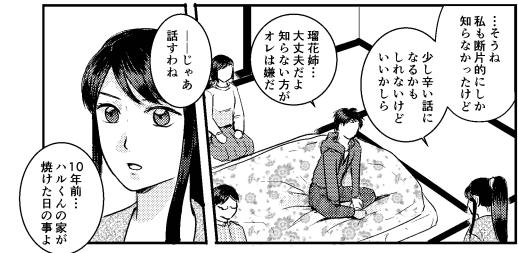
同業者…?!

どうしても
コンタクト
取りたくて
口説いたような
形になったのは
反省してるけど

はい

じゃあ
グループメッセ
作りましょうか





貴方は錯乱状態で
出火している家から
出てきたところを
私の父に抱えられ
ここに来た

そして
お爺ちゃんに
何かの術を
施されていたのを
私は観ていたの

それから
毎日のように
うちに遊びに
来ていた貴方は
来なくなった

靈感があつて
神使のハクと
三人で一緒に
よく遊んでいたから
寂しかったことを
よく憶えているわ

!

山の狐を
追い回した
記憶は
あるけど……

靈感が
あったなんて
覚えはないよ

お爺ちゃんは
その時に
こう言っていたわ

何か
恐ろしい
ものを視て
ハルクくんは
錯乱した

だから靈感と
これまで視た
ものを
封じたんだって

私は
貴方が霊装を
重ねることで
その時の事を
思い出すんじや
ないかって
不安だった

そしてさつき
綺羅くんが
視たビジョンは

その封印が
剥がれかけている
物だと聞いたわ

このままだと
遅かれ早かれ
貴方はその時の
記憶と
本来持っていた
力を解き放つ

それならいっそ
今やってしまった
方がいいと思うの

封魔

……

高峰先輩は：
ルークさんは
目を逸らさずに
辛いことを
受け止めて
来たんだよね

なら

俺も受け止める
覚悟を決める

あの時に
何があったか
ちゃんと思い出すよ



分かったわ

綺羅くん
お願い

ああ



— 霊装

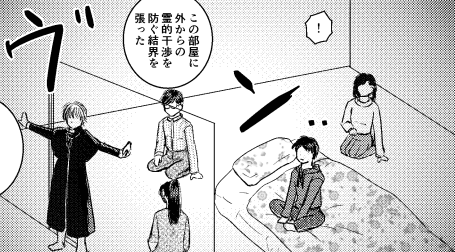
110 P.11

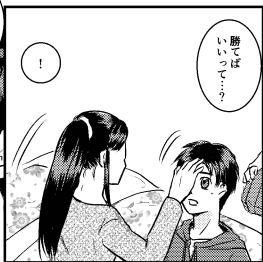


!

この部屋に
外からの
霊的干渉を
防ぐ結界を
張った

後は俺の
霊力が
勝てばいいが





何この
黒いモヤ……!

ハル
大丈夫か?!

このモヤ
悪魔に
取り憑かれた
人みたいじゃ
ないですか!

……
思った通りか

——その通りよ

あの日は
悪魔に
魅入られたの
だから

ズズズズズズズズズズ